

実践事例

1 実践の概要

(1) 取組みのねらい

- ①いじめの未然防止、または、早期発見・早期対応
- ②生徒の実態把握
- ③指導・対応のための指導体制確立
- ④教育相談体制の強化
- ⑤保護者及び関係機関との連携体制

(2) 取組みの内容

- ①「いじめ」に関するアンケートの実施（実態調査）
- ②面接週間の実施（HRTと生徒の個人面談）
- ③教育相談（カウンセリング）の計画的な実践
- ④ホームルーム・学年集会・全校集会等での「いじめ根絶」の指導
- ⑤保護者との連携強化
 - ・PTA総会・方部懇談会・PTA懇談会等の定期的な懇談会の実施
- ⑥年間10回の奉仕作業（通学路清掃）
- ⑦特別支援教育の実践
- ⑧ちょっとした「いじめ」も見逃さないで学校全体で指導・対応する体制

2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

- ①アンケートにより、子供達の発するサインを鋭くとらえることができた。
(昨年は、アンケートから早期発見、早期対応することができた。)
(生徒達は、正直に安心してアンケートに答えることができた。)
- ②面接週間（6月初旬）の実施により、新学年が始まってからの学校生活についてや友人関係等の悩み事を聞くことができる。（日頃かかえているストレス等を話し、ストレスを発散しすること等もできる。）
- ③教育相談（カウンセリング）によって、被害者の心のケアをしたり、担任や学年と連携し、人間関係の修復することができた。また、加害者に対しても適切なアドバイス等ができた。（加害者の態度も変わり、被害者の心の痛み等も考えるようになった。）
- ④HRや集会等で、脅し・脅迫・パシリ・仲間はずれ・言葉の暴力などの嫌がらせは、心の問題だけではなく規律や規範意識の問題だと説明し、「いじめ撲滅」を宣言して、生徒達にも理解を求めた。（「いじめ」を許さないという雰囲気を作らせることができた。）
- ⑤保護者と連携する体制を作り懇談会で協力等を求めるこによって、保護者から「いじめ」の実態を学校に教えてくれたり、子供の友人の様子等を知らせてく

たりした。(保護者側も真剣に考え、取り組んでくれた。)

⑥奉仕作業を通し、クラスの融和やきれいで正しい心・思い遣る心を育成することができた。

⑦本年度より特別支援教育体制により、コミュニケーション不足の生徒達を支援する予定である。(特別支援教育の指定を受けている。)

⑧学校全体で、教師全体が組織化して迅速に対応し、適切に対応することができた。

「いじめ」に関するアンケート

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

★このアンケートは、平成19年4月～6月の期間で答えてください。

下にあげた項目について正直に答えて下さい。

Aは「されたことがある」、Bは「されたことはないが見たことがある」、Cは「され
たことも見たこともない」のどれかに○をつけなさい。

質問項目

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1. たいした理由もなく殴ったりけったりする。 | | | |
| 2. 自分では手を出さずに、他の人に命令して暴力をふるわせる。 | | | |
| 3. お金をくれと言ったり、金を都合してこいと言う。 | | | |
| 4. お金や文房具等を借り、そのまま返さない。 | | | |
| 5. 教科書や靴などをわざと隠したりする。 | | | |
| 6. 私物（文房具類等を含む）をしばしば壊されたりする。
<small>こわ</small> | | | |
| 7. いやがらせの電話やメールをする。 | | | |
| 8. みんなの前でわざと悪口を言う。 | | | |
| 9. 自分では直接せず、他の人を使って嫌がらせをする。 | | | |
| 10. 「告げ口したら許さない」などと言って無理矢理口止めをする | | | |
| 11. 一人を大勢で無視したり、仲間はずれにしたりする。 | | | |
| 12. 自分のやらなければならぬ仕事等を、無理矢理やらせる。 | | | |
| 13. 家庭のことや身体的なこと等を悪意をもって言いふらす。 | | | |
| 14. 下級生に理不尽なあいさつや付き合いを強制する。 | | | |
| 15. お互いに悪いのに、一方的に相手だけに謝らせたりする。 | | | |
| 16. 態度が悪いと言って、嫌がらせや脅迫をする。 | | | |

この欄は記入不要→